

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

線虫研究のこれまでとこれから、 また、学会の役割について (皆川 望)	1
事務局から	2
2007 - 2008 年度 役員選挙結果 2007 - 2008 年度 日本線虫学会事務局体制・会計監査および選挙管理委員 編集事務局移転のお知らせ	
2007 年度日本線虫学会大会 (第 15 回大会) のお知らせ	4
記事 第 2 回九州線虫懇談会報告 (安松良恵)	6

線虫研究のこれまでとこれから、 また、学会の役割について

皆川 望 (九州沖縄農研)

線虫学会事務局から送られてきた役員選挙結果に、会長に選出と書いてあるのを見て驚きました。日本線虫研究会が発足した 1971 年に線虫の研究を始めて、研究会から学会に移行する時の事務局を担当しました。現役最後の 2 年間で研究会が発展した学会の会長というのにもなにかの縁では、と現在は思っています。

この 30 数年の間で、日本の線虫研究で独自性がある注目すべきものは、マツノザイセンチュウの研究ではないかと思えます。これは世界をリードする研究でした。また、世界的には、*C. elegans* の研究が線虫学の枠を飛び出して大きく発展しました。

マツノザイセンチュウの研究は、本学会員の清原友也さん (当時 林試九州支場)

の 1969 年のザイセンチュウ発見を受けて、国の林業試験場が中心となって研究が始まりました。同じく会員の真宮靖治さんや森本桂さんたちの努力によって、線虫の病原性確認、線虫とそのベクターの生態の解明、それに基づく防除技術の開発まで比較的短時間で研究が進みました。早急に解決を要する林業の大問題であったこともあります。国、県、大学、また、民間の多くの研究者がこの問題に感心を持ち、それぞれの専門分野からの多様なアプローチがあったことが研究の進展に大きく貢献したと思います。

C. elegans の研究については、中心的な役割を果たし 2002 年にノーベル医学生理学賞を受賞した Sydney Brenner (1927-) の自伝と彼を中心としたこの分野の研究の歴史に関する 2 冊の本が日本語で出版されました (注)。これを読むと、まず思うのは、

C. elegans の全ゲノムの塩基配列の解読が完了した後にノーベル賞を受賞したが、その研究以前から、彼が中心となって、発生、神経系などじつにさまざまな分野の材料としてこの線虫を使った研究を行ってきたということです。そして、これらの研究もまた、多くの研究者がそれぞれの関心と得意技と熱意をもって研究に参画していたということです。

このような研究者の人と人とのつながり、それぞれの人材を活用していく研究リーダーの重要性があります。マツノザイセンチュウの研究は、共有する目標を達成するために研究者が連携していました。*C. elegans* の研究では、研究材料（実験動物）としての扱いやすさ、また、さまざまな新しい研究手法の開発という時代背景が基本にあって、ある分野で得られた成果や新しい研究手法が次々と違った分野の研究を刺激していく、という連鎖がおきたようです。また、Brenner が研究を始めたころのイギリスは、すぐには成果が出なくても何年にもわたって研究を継続できたという、研究者にとっては幸福な時代だったようです。最近では、私の勤務する独立行政法人を含めて、短期間で成果をあげたかどうかの評価が重視されています。

最近の日本線虫学会をみると、大会での講演の数は毎年それほど変動していないようです。小さな学会ですが、さまざまな人が大会に参加しています。特に、若い人の参加が目立つようになりました。情報の収集は、最近ではインターネットでの検索や電子メールのやりとりが主になっていますが、大会に参加した人と人との出会いも大事だと思います。大会に若い人が参加しやすくなる工夫をしてもよいかと思います。

ただ、投稿論文があまりふえません。これは、学会に移行した時からの問題です。これについても、考えていく必要があります。

学会は、線虫研究分野では特に、組織内の縦関係の日常から、組織を横につなぐ関係を強化する機能を持つように努める必要があります。日本線虫学会をより活性化していくためになにをしていけばよいか、会員の皆さんと考えていきたいと思えます。

（注）アンドリュー・ブラウン著（長野敬・野村尚子 訳）「はじめに線虫ありきそして、ゲノム研究が始まった」青土社（2006）283 + iii pp. [原著：Brown, Andrew（2003）"In the Beginning was the Worm: Finding the Secrets of Life in a tiny Hermaphrodite". Simon & Schuster, London, 248 pp.]

エロール・フリードバーグ、エレノア・ローレンス編（丸山浩・丸山一郎・丸山李紗 共訳）「エレガンスに魅せられて：シドニー・ブレナー自伝（ルイス・ウォルパートに語る）」琉球新報社（2005）239 pp. [原著：Brenner, Sydney（2001）"My Life in Science". Biomed Central Ltd., 191 pp.]

[事務局から]

2007 - 2008 年度役員選挙結果

正会員の投票による日本線虫学会会長選挙・評議員選挙は、本年 2 月末日を締切として実施されました。3 月 5 日に事務局（中央農研）において、選挙管理委員の中園和年氏と岡田浩明氏によって開票および集計作業が行われた結果、下記の新会長と新評議員が選出されました。

〔会長選挙〕

選出 皆川 望（九沖農研）

次点 近藤 栄造（佐賀大）

〔評議員選挙〕

選出 荒城 雅昭（農環研）

二井 一禎（京都大学）

岩堀 英晶（九冲農研）

近藤 栄造（佐賀大学）

三輪 錠司（中部大学）

水久保隆之（中央農研）

百田 洋二（農研機構本部）

奈良部 孝（北海道農研）

小倉 信夫（明治大学）

岡田 浩明（農環研）

〔以上、アルファベット順〕

次点 山中 聡（アスタライサイエンス）

（定員数末位は得票同数であったため、日本線虫学会選挙細則に基づき、年少者である岡田氏を当選者とした。）

2007 - 2008 年度日本線虫学会事務局体制・会計監査および選挙監理委員

評議員の承認を得て、2007 - 2008 年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、会計監査につきましては9月開催を予定している総会に提案し、承認を頂きます。

事務局長

奈良部 孝（北海道農研）

会計幹事

伊藤 賢治（ " ）

庶務幹事

植原 健人（ " ）

学会誌編集委員長

水久保 隆之（中央農研）

編集幹事

荒城 雅昭（農環研）

岡田 浩明（農環研）

相川 拓也（森林総研）

ニュース編集小委員会

岩堀 英晶（九冲農研）

吉田 睦浩（中央農研）

会計監査

串田 篤彦（北海道農研）

水越 亨（北海道立道南農試）

選挙監理委員

小坂 肇（森林総研北海道）

橋本 直樹（北海道立花野菜センタ
ー）

編集委員

荒城 雅昭（農環研）

二井 一禎（京都大学）

Jerome T. Gaspard（ネマテンケン）

石橋 信義

岩堀 英晶（九冲農研）

近藤 栄造（佐賀大学）

小坂 肇（森林総研）

真宮 靖治

三輪 錠司（中部大学）

水久保隆之（中央農研）

百田 洋二（農研機構本部）

小倉 信夫（明治大学）

Yuji Oka（イスラエル農業省 Gilat
Research Center）

岡田 浩明（農環研）

白山 義久（京都大学）

〔以上、アルファベット順〕

学会事務局移転のお知らせ

評議員の承認を得て、事務局が中央農業総合研究センター内から移転し、2007年4月1日から北海道農業研究センター内になります。不慣れな新事務局ではありますが、今後、どうぞよろしくお願いいいたします。

住所：〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘
1番地
北海道農業研究センター

バレイショ栽培技術研究チーム内

Tel : 011-857-9247

Fax : 011-859-2178

会費振込先 :

郵便振替

日本線虫学会

00170-6-610102 (変更なし)

北洋銀行

清田区役所前支店 (店番号 497)

日本線虫学会 3766497 (普通)

編集事務局移転のお知らせと日本線虫学会誌への投稿募集

充実した学会誌の発行のために、和文あるいは英文の本論文・総説・短報・資料等のご投稿を、大至急お願い致します。編集委員長の交代により、編集事務局は下記に移転しました。

投稿先

水久保隆之 mizu*affrc.go.jp

〒305-8666 つくば市観音台 3-1-1

中央農業総合研究センター

病虫害検出同定法研究チーム

TEL 0298-38-8839, 8845

FAX 0298-38-8837, 8839

2007 年度日本線虫学会大会 (第 15 回大会) のお知らせ

大会事務局

1. 開催日

2007 年 9 月 13 日 (木) ~ 14 日 (金)

2. 日程 (時刻は予定)

9 月 13 日 (木) 13:00 ~ 20:00

- ◆ 総会
- ◆ 特別講演
- ◆ 一般講演
- ◆ 懇親会

9 月 14 日 (金) 9:00 ~ 18:30

- ◆ 一般講演

確定した大会プログラムは、本年 8 月に発行予定の本会ニュースに掲載するほか、本会ホームページ

(<http://senchug.ac.affrc.go.jp/>) およびメンバーリングリスト (NEMANETJ) でもお知らせします。

3. 会場 (地図参照)

大会、懇親会

京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール III

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel: 075-753-2285

URL: [http://www.kyoto-](http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/11-top.htm)

[u.ac.jp/top2/11-top.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/11-top.htm)

4. 参加費および懇親会費

- 1) 大会参加費: 一般 3,000 円
学生 2,000 円

大会参加費は 9 月 14 日の昼食代を含みます。

- 2) 懇親会費 : 一般 6,000 円
学生 3,000 円

7 月 30 日以降振込の際は、学会参加費は一律 4,000 円、懇親会費は 7,000 円とさせていただきます。

5. 参加申し込み

大会参加を希望される方は、2007 年 7 月 27 日 (金) までに参加費を添えて大会事務局までお申し込み下さい。同封の郵便振替要旨兼大会参加申込書 (口座番号: 00920-0-84360、加入者名: 日本線虫学会第 15 回大会事務局) をご利用になり、必要事項をもれなく記入 (チェック) の上、7 月 27 日 (金) までに郵便局から振替を行って下さい。休日に申し込みが可能な郵便局を利用される場合は、締め切りを 7 月 29 日 (日) とします。

6. 講演申し込み

講演発表は 1 人 1 題とし、少なくとも

共同発表者に日本線虫学会会員を含むことが必要です。講演発表では、PC プロジェクターまたは OHP（要事前申し込み）が使用できます。講演時間は討論時間を含めて 1 題 15 分を予定しています。PC プロジェクターの利用環境は Windows、対応ソフトは MS パワーポイント 2003 です。同封の郵便振替要旨兼大会参加申込書の講演申し込みに関する事項にも記入（チェック）してお申し込み下さい。

また、講演予稿を下記要領に従って作成し、2007 年 7 月 27 日（金）までに大会事務局講演予稿集担当へお送り下さい。講演予稿は電子媒体と紙媒体（印字原稿、当日消印有効）で受け付けますが、電子媒体による送信を歓迎します。印字原稿の場合はコピー 1 部を添えて下さい。電子メールで受信した講演要旨については、受信後 1 週間以内に受付確認メールを講演予稿集担当から送信します。1 週間を過ぎても確認メールが届かない場合は、大会事務局までご連絡下さい。

7. 講演予稿の作成

講演予稿は B5 判用紙を使用し、横置きで、上下左右の余白を 2.5cm として作成して下さい。1 行は全角 45 字、本文 13 行（全角 585 文字）、全体 16 行（タイトル行 3 行のとき）か 17 行（同 4 行以上）以内として下さい。1 行目に演者名を記し（発表者の前に 印、複数の場合は・で区切る）、続けて括弧（ ）内に所属の略称（所属が異なる場合は*、**印を付ける）、1 字空けて演題、1 字空けて上記事項の英文表記（氏名は K. Futai のように、所属は Kyoto Univ. のように省略して記す）を記載して下さい。本文は行を改めて次の行から始めて下さ

い。タイトル行はゴシック系（MS ゴシックなど）、英文表記は Century または Times New Roman など、本文は明朝系（MS 明朝など）フォント（12 ポイントを推奨）を使用し、本文の英数記号は半角を使用して下さい。

講演予稿を電子メールの添付ファイルで提出される場合、ソフトウェアは「MS ワード」または「一太郎」を使用して下さい。

講演予稿集は送信または郵送された講演要旨をダイレクトプリントして作成します。郵送の場合は、折り目や汚れがないようご注意ください。講演予稿集は大会当日、参加者に会場で配布します。講演要旨は日本線虫学会誌 37 巻 2 号に掲載されます。

8. 大会事務局

お問い合わせ（講演予稿送付も同じ）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科

地域環境科学専攻

微生物環境制御学研究室 竹内祐子

Tel: 075-753-6060

Fax: 075-753-2266

E-mail: yuuko*kais.kyoto-u.ac.jp

9. 交通

1) 飛行機をご利用の場合

関西国際空港から

JR 西日本:

関西空港駅から京都駅行きの特急はるかが 1 時間に 2 本出ています。京都駅下車（約 75 分、3,690 円）。

2) 京都駅からへ。

リムジンバス:

関西国際空港から京都駅および京都市内の各停留所まで 1 時間に 1 ~

2本出ています(約2時間、2,300円)。

2) 京都駅からへ。
乗り合いタクシー(2日前までに要予約):

関西国際空港から会場もしくは宿泊先まで直接送迎が可能です。ご予約、お問い合わせはMKタクシースカイゲイトシャトル(075-702-5489)またはヤサカ関空シャトル(075-803-4800)まで(約2時間、3,500円)。

大阪国際空港(伊丹空港)から

リムジンバス

京都駅および京都市内各停留所行きのバスが1時間に3本程度出ています(約1時間、1,280円)。

2) 京都駅からへ。

乗り合いタクシー

大阪・伊丹空港から会場もしくは宿泊先まで直接送迎が可能です。ご予約、お問い合わせはMKタクシースカイゲイトシャトル(075-702-5489、約1時間、2,300円)。

2) 京都駅から

タクシー

京都駅中央口もしくは八条口近くのタクシー乗り場から京都大学時計台まで、約20分かかります(約1,800円)。

市バス

京都駅北側の市バス乗り場Dより、「北大路バスターミナル行」206号系統のバスで京大正門前下車(約35分、220円)。

地下鉄と市バス

京都駅より地下鉄烏丸線で今出川駅(K06)まで行き、市バス「百万遍/祇園行」201号系統で京大正門

前まで(計470円)。

[記 事]

第2回九州線虫懇談会に参加して

安松良恵(佐賀大学)

4月7日(土)に九州沖縄農業研究センターにて「第2回九州線虫懇談会」が開催されました。当日は天候に恵まれ、研究センター構内に咲く桜は満開で風が吹く度に花吹雪となり大変きれいでした。午後1時30分に集合して、まずは九沖農研の岩堀さんの案内のもと、難防除害虫研究チームの実験室や温室を見学させていただきました。温室では様々な植物寄生性線虫の維持と試験が行われており、中でも最近の健康ブームでよく名前を聞くノニについての話が印象的でした。ノニで儲けようと苗木を購入し、定植したものの、ネコブセンチュウによってほとんどが台無しになり、大きな損害を被った人があるという事を聞き、ネコブセンチュウの実際の被害の大きさに改めて驚きました。

施設見学の後、講演会が開かれました。まず、佐賀大学線虫学研究室の先輩で今年学位を取られた鎌田龍星さんが、学位取得記念講演として「日本産昆虫病原性線虫と共生細菌の分子系統ならびに種特異性」という演題で発表されました。同じ研究室に所属しているためにこれまで発表を聞く機会が何度もあったのですが、学会や大学内での発表とは参加者も雰囲気も違い、様々な観点から色々な質問があったのが印象に残りました。

次に、佐野善一さんの退職記念講演「線虫の本場、九州の30有余年分布や寄生性変異、生存の問題は面白い」がありました。サツマイモネコブ線虫2期幼虫の土壌中での生存場所と生理状態、九州におけるキタ

ネグサレセンチュウやキタネコブセンチュウの分布、パラグアイでのダイズシストセンチュウについてなど、これまで佐野さんが約 33 年間研究されてきた内容のダイジェストを聞く事ができました。研究の事をとても楽しそうに発表される姿や、まだまだ興味を持っているテーマがたくさんあり、それらを若い人に是非研究して欲しいとおっしゃっていたことが印象的でした。また、退職前に仕事をされていたパラグアイでの思い出の写真（その多くがパラグアイの美しい女性の写真！）が、まじめな研究のスライドの途中途中で突然出てくる度に参加者は驚かされ、一瞬にして会場も楽しい雰囲気になりました。

講演の後は、同会場にて懇親会が開かれました。学生は、佐賀大学からの 5 名だけだったのですが、昨年お会いした方々とまた交流することができ、また、線虫学会ではお会いできないサツマイモの育種関係の

方々や、飛び入り参加された害虫関係の研究室の方々と、和やかな雰囲気楽しく過ごす事ができました。昨年に引き続き今年も線虫懇談会に参加してみて、皆さんが線虫について楽しそうに語られている様子が最も印象的でした。



懇親会の一場面。左から、松田さん、村田さん（いずれも九州東海大学）、佐野さん、中山さん（九沖農研）

[編集後記]

ニュース編集委員続投となりました、九州沖縄農研の岩堀です。今後ともよろしく願いいたします。新会長が直線距離にして約 10m の距離に座っておられるので（1階と4階ですが）、学会事務局の大（苦？）役が割り当てられるのではと怯えておりましたが、幸い北農研の方々に引き受けていただき、ほっとしました。

先日、石垣島へサンプリングに出かけました。石垣島はGW後の平日だというのに観光客でいっぱいでした。沖縄の土は粘土質で硬く、石灰岩のかけらもたくさん入っているので掘るのが実に大変です。それでも3日間で60点ほど集めると、指にはマメが出来てしまいました。セミが鳴き、どこからか聞こえてくる三線の音を聞きながら、汗だくになって日本の端で仕事するのは、浮世離れしていてとても気分のいいものでした。

（岩堀英晶）

本号より線虫学会ニュースの担当となりました中央農研の吉田です。串田さんの前号編集後記での予言どおり、バトンタッチとなりました。昨年度まで3年間ではありますが、会計幹事の任をおおせつかっておりました。本年度から北濃研の皆様が事務局を引き受けてくださり、晴れて会計事務や発送事務から開放されることとなり、北濃研の皆様には大変感謝しております。これからは、串田さんの遺志（？）をついで、読みやすい紙面になるように努めていきたいと思っております。これから最低2年のお付き合いとなります。記事の提供等ご協力よろしく願います。

（吉田睦浩）

2007年5月25日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行
編集責任者 岩堀 英晶
（ニュース編集小委員会）

（独）農業・食品産業技術総合研究
機構 九州沖縄農業研究センター
難防除害虫研究チーム

〒861-1192

熊本県合志市須屋2421

TEL: 096-242-7734

FAX: 096-249-1002

E-mail: iwahori*affrc.go.jp

日本線虫学会ニュース第41号

ニュース編集小委員会

岩堀 英晶（九州農研）

吉田 睦浩（中央農研）

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：（独）農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター

〒062-8555

札幌市豊平区羊ヶ丘1番地

Tel: 011-857-9247

Fax: 011-859-2178

E-mail: uehara*affrc.go.jp